本種被害の確認ポイント「フラス、樹液」

本種のフラスは**木屑が多く、大量で、排出直後は棒状やかりんとう状につながっていることが多い**のが特徴です。フラスは幼虫の体の大きさに比例し、1㎜～５㎜前後までさまざまな太さが見られます。蛹室を作る時にはおが屑状のフラスを排出します。

フラスがなくても、樹液が何か所も大量に出ている場合には、本種である可能性も考慮し、注意して観察して下さい。

○太いフラス



○細いフラス



○おが屑状のフラス（根元のことが多い）



○樹液（何か所も大量に出ている場合は要注意）



〈参考：本種に良く似たフラス〉

コスカシバ（スカシバガ科）



不定形で、樹液が漏出していることが多い。色は通常暗褐色で、フラスの中の糞が赤く丸く見える。

ケアリ類（アリ科）



塊ではなく、線状に連なっている。材質は細かい木くずが多いが、本種のフラスを利用している場合もある。

本種被害の確認ポイント「類似種との見分け方」

塊のままでは、他の在来カミキリムシやコスカシバなどとの見分けが難しい場合もありますが、ほぐして観察すると、本種やその他の昆虫のフラスの特徴が分かります。

フラスを見つけたら、写真を撮るだけでなく、実際にサンプルを採取して、ルーペや顕微鏡などを使って観察してみてください。

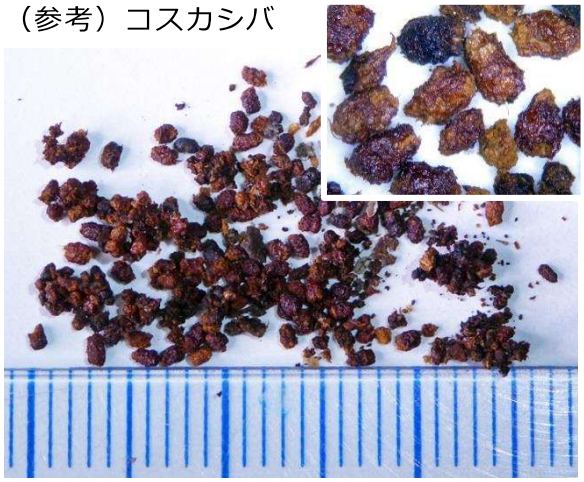


クビアカツヤカミキリ



・薄い木の切片を多く含む

（参考）コスカシバ



・顆粒状の糞を多く含む

（参考）在来のカミキリムシの例－ゴマダラカミキリ－



・フラスの色や形状、大きさはクビアカツヤカミキリに似ているが、ほぐすと繊維状の木屑を多く含んでいる